



コミュニケーションペーパー

2024
Spring & Summer

春夏号

Vol. 11

TAKE FREE

特集 日本型福祉社会論と
地域包括ケアシステム
副学長・教授 余村 望

トピックス

いっしょにね！
～おはなしと、あそびのじかん～
開催しました！

▶▶▶先輩に聞く！

保育の現場から (K.Nさん)

▶**教員紹介**

学科長・准教授 (教育心理学) 堅田 弘行

▶**2024年オープンキャンパス
開催日程**

編集後記

日本型福祉社会論と地域包括ケアシステム

2000年に施行された日本の介護保険制度は、1994年世界初の介護保険制度を創設したドイツに範を得て始まったことが知られている。ドイツの制度財源確保策は、それまで北欧3国を筆頭とするヨーロッパ諸国が取った高福祉高負担を支える税方式とは異なる社会保険制度である。これに倣った日本の介護保険制度は、少子化、超高齢化、人口減少、低経済成長といった経済課題を背景に、持続可能な社会保障制度の創造を目指し、規制緩和と新自由主義による民間活力の導入といういわゆる小さな政府手法を選択した。その突破口を模索したのが社会福祉基礎構造改革であり、介護保険制度はそのシンボルの事業である。

この一大社会保障制度改革が福祉事業参入の門戸を広げ、サービスの選択肢を増やしてきたことは成果の一つではあるにしても、利用者主体による選択へと謳いつつ、ある意味事業実態にかかる行政責任の度合いを薄め、地域格差を黙認し、制度基盤となる人材の確保養成システムの未成熟と従事者への劣悪な処遇、サービスの平等性や質の向上よりも収益性が優先される事業運営体質など多くの課題に直面している。これらの課題の根底にあるのは、新自由主義による介護保険制度が、果たして真の人権尊重、人の尊厳の保持に根差した制度として成熟する方向にあるかという疑問である。かつて、社会福祉基礎構造改革を主導した当時の小泉純一郎総理大臣は、「競争こそがサービスの質を向上させ、質の高いサービスが生き残る」と言ったが、介護福祉の現状とはかけ離れた約束であったと言わざるを得ない。

その後、「高齢者が尊厳を保ちながら、重度な要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができる」社会の実現を目指す地域包括ケアシステム推進が提唱され、介護保険事業の一つのゴールとして全国的に取り組まれていることは周知である。2015年からスタートした第6期介護保険事業計画にその事業推進の方向性が明確に位置付けられ、2024年度は第9期介護保険事業開始の年である。

はたして日本の福祉とは、どこに軸足を置き、何を求めるものなのかという命題に、未だに確かな答えを持っていないまま今があると感じている。それは、福祉事業が政策化され、必然的に社会経済動向に影響を受けざるを得ない構造になっており、政権の主張する福祉政策が市民権を得るためには経済政策化が否めず、国民の支持動向に合わせて変化し続けざるを得ない性格を持っていることによる。つまり、福祉は経済政策の一部となっている。その結果、あてのない未来経済を担保に、未来の担い手である若年層やこれから生まれ来る子どもたちが背負うことになる負債ばかりを増大させる結果を招いている。日本の福祉政策の不安定さ



副学長・教授
余村 望

は、1973年を手厚い社会保障政策の実現によって福祉元年と位置付けながら、同年に起きた第1次オイルショックによってサービスと負担の構造変更を必然とし、福祉見直しと位置付けた掌返し

が典型的な例である。高校の教科目「社会福祉基礎」の2023年度版テキスト(実教出版)に次のような記載がある。

「1973年のオイルショック以降の福祉見直しのなかで、1980年前後には日本型福祉論が提起された。これは、ヨーロッパのように過度の福祉国家をめざすことは経済の活力を低下させてしまうため、社会保障の充実よりも、家族の扶養、地域の相互扶助などをいかした日本独自の福祉社会を構築しようという考えである」(p60)

テキストに「過度の福祉国家」の定義はないものの、北欧3国を例にとる高福祉高負担を指す文脈にあつて、この福祉観のルーツを、1979年「新経済社会7か年計画第1部Ⅲ.計画期間における経済運営の基本的方向」に見ることができる。当時の大平正芳内閣において、自由民主党が提唱し閣議決定された本計画では、家庭基盤充実及び田園計画構想が打ち出され、重要施策として「新しい日本型福祉社会の実現」を掲げこう述べている。

「欧米諸国へキャッチアップした我が国経済社会の今後の方向としては、先進国に範を求め続けるのではなく、このような新しい国家社会を背景として、個人の自助努力と家庭や近隣・地域社会等の連帯を基礎としつつ、効率のよい政府が適正な公的福祉を重点的に保障するという自由経済社会のもつ創造的活力を原動力としたわが国独自の道を選択的に創出する、いわば日本型とでもいうべき新しい福祉社会の実現を目指すものでなければならない。」(傍線筆者)

この福祉社会観は、社会福祉基礎構造改革を経て、今も福祉社会構想の基調となっている。前述の地域包括ケアシステムを構築する資源は、自助・互助・共助・公助の4つの助とされている。自助は国民の責任としての自助努力を、互助は、家族及び日常生活圏域を中心とする地域近隣を、共助は社会保険方式を、最後に公助は公的扶助を指している。特に、お金のかからない地域の互助機能開発に重心を移したい福祉政策は、まさに日本型福祉論を踏襲した構造となっている。

特集

しかし、核家族化の進行、人口の減少と偏在、個人情報の厳重管理とコミュニティ機能の崩壊等人と人とのつながりが希薄化する日本において、政府が目指すその福祉社会の理想構造とは現実的なのだろうか。そして、人と社会の基盤となる医療・福祉・教育・保育・貧困対策といった命の維持に直結する資源の維持が、経済動向に揺れ動かされることを妥当と言えるのだろうか。不要とは言わないまでも、互助という失われた社会機能の復活に頼るノスタルジックな福祉政策が現代を救済するとはどうしても考えにくい。

福祉サービスと負担についての国民支持率を対象としたある調査(2018)では、調査時期によって高低があるものの、年齢層を問わず、高福祉高負担を支持する人たちが過半数を占める

結果が得られている。であれば、高福祉低負担という幻想と現実の狭間で流動する福祉政策に見切りをつけて、100年と言われる人生の設計を本気で考えてみる必要があるのではないかと思う。

大阪健康福祉短期大学松江キャンパス 余村 望 (社会福祉学)

【参考文献】

- ・「日本型福祉社会論」堀 勝洋 (社会保障研究所)『季刊社会保障研究』(Vol.17, No.1) 1982.3
- ・「社会保障の分野別にみた高福祉高負担への支持」武川 正吾他『厚生指標』(第64巻第8号) 2017.8
- ・「高福祉高負担論への支持動向の反転」武川 正吾他『社会政策』(第10巻第2号) 2018.10
- ・「21世紀に向けての社会保障」社会保障構造の在り方について考える有識者会議 2000.10
- ・「福祉国家の転換と課題—自由主義的福祉国家を中心に—」廣川 嘉裕『関西大学法学論集』(第55巻3号) 2005.9
- ・『福祉社会の価値意識』武川 正吾編 東京大学出版 2006.2

トピックス TOPIX

「いっしょにね!~おはなしと、あそびのじかん~(増原ゼミ)にご参加ありがとうございました!

本年度から教員の増原とゼミ生15名による地域貢献活動を見据えた親子活動を始動しました。「おはなしと、あそび」をコンセプトに、絵本に始まり絵本で終わる本活動は各回でテーマを設けた遊びがあります。2023年度は10月~1月に全3回開催し、学生はこつこつと準備に取り組んできました。

第1回目は「親子でからだをうごかそう!」をテーマに、全て手作りのあそびコーナーを作りました。絵本コーナーはもちろん、キラキラボトルやトンネル、ボールプールなど、乳児期の子どもたちが安全に楽しむことができる環境を作りました。日常生活では中々ダイナミックに動ける環境を設けることは難しいですが、この日は幼児期を迎えたお子さんたちも大はしゃぎでした!

第2回目は「親子で一緒にふれあいタイム!」をテーマに、学生の導きによるふれあい遊びを行いました。一人ずつ子どもたちの名前を聞き、皆で名前を呼び合うことで生



まれる笑顔が素敵な時間。「ととけっこう」などのわらべ歌や「バスにのって」の音楽に合わせたふれ合い遊びを通して親子で身体を動かしました。

最終回では「つつん ぶにぶに 感触あそび♪」をテーマに、絵の具や洗濯糊を使った活動を行いました。ジップロックに入れたものを指で押すと「ぐにゅっ」と面白い感覚を味わうことができます。布団サイズの絵の具シートも登場し、子どもたちは大興奮でした。

来場されたお母さん方の穏やかな笑顔や子どもたちの興味津々な表情を見ることができて、学生も教職員も本当に幸せを感じられるひととき。回を重ねてお母さん同士の関わりも生まれ、こうしたお母さん同士の繋がりになることも大変うれしく思っています。次年度も続けて開催予定です。詳しくは、ホームページで掲載いたしますので、どうぞ楽しみに開催案内をお待ちください。

大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 増原 真緒

教員紹介



学科長・准教授 (教育心理学) 堅田 弘行

Q1 研究テーマと研究の目的についておしえてください。

研究テーマは「保育者が環境再構成をおこなう時の思考過程」です。幼児教育における環境にはありのままの自然も含まれますが、多くの場合、幼稚園や認定こども園等で保育者によって予め構成された環境に対し、子どもが働きかけを行うことが期待されています。保育者は子どもの動きを予測して環境を構成し、子どもの活動を援助しますが、時には予想を超える出来事も起こり得るものです。なぜ保育者の予測を上回るのか、それは子どもと保育者とで

は、目の前のモノや現象から何を認知しているのか異なるためですが、保育者は保育実践の積み重ねから、子どもの視点にたって子どもの考えを理解しようと試みます。そして、保育者は自身の考えと子どもの認識のズレを理解すると、環境の再構成を試みます。子どもの興味関心は変化したり、大きくなったり小さくなったりしますので、一瞬の判断が求められます。この判断は、経験によって蓄積された実践知に基づきおこなわれ、確かなエビデンスがそこにあると考えられます。何によって判断をおこなっているのか、そしてどのような

思考によってその判断がおこなわれているのか、実践に基づくそれらの構造を明らかにすることを目的にしています。

Q2 なぜその研究をしようと思ったのですか?

日頃から様々なことに「なぜ○○なのだろう」と考えるようにしていますが、偶々見ていた書籍から調べてみようと思いました。ただ、このような取り組みは保育の資質向上にもつながると信じています。

Q3 本学の教員として意識されていることはなんですか?

「学生とともに学ぶこと」です。ゼミや卒業研究の指導の中であるテーマに関して度々学生と意見交換をおこないますが、学生から学ぶことはたくさんあります。それは人間的なものだけでなく、学問的なものについても当てはまります。学生のふとした疑問を一緒に考えながら思考を巡らせることで、学生のとらえる「保育」について常に考えるようにしています。

Q4 座右の銘やこだわりなど

こだわりをあまりもたないようしているつもりです。色んな出来事から何か学ぶことができなさを考えています。学生が卒業研究のために読んだ書籍を後でこっそり購入し、読んでいることも結構あります。そのためか、研究室の本棚はいろいろな領域の書籍が並んでしまっています。

保育の現場から

キラリ仕事人

先輩たちに聞く!

K.N さん (2期生)

松江市立皆美が丘女子高等学校卒業

社会福祉法人玉依会 なの花認定こども園 勤務

大学での年齢に応じた遊びについての授業が、とても良い学びになりました。

大学での学びの中から仕事で役に立っていることは?

私が大学での学びの中から仕事の役に立っていると思うことは、様々な施設での実習やボランティア活動の経験です。保育園には、様々なニーズを抱えた子どもたちがいます。児童養護施設や障がい者福祉施設での経験や学びが手立てを考える中で役に立っていると感じています。

保育現場にでて改めて思ったことは?

現場に出て改めて思ったことは、毎日が学びの連続だということです。私は一年目の頃、「また失敗した」「こんな活動にしなければ良かった」など、マイナスに考えて落ち込んでしまうことがほとんどでした。ですが、先輩からの「次はこうしたらいいんじゃない」「やってみたら気づけたね」という言葉をきっかけに、挑戦することを楽しいと感じられるようになりました。日々、失敗したことを悔やむのではなく、次にどう活かすかを考えることを大切に頑張っています。

保育士として心がけていることは?

子どもの気持ちを常に考えることです。子どもの発言や行動の背景にはいろんな思いがあり、同じ「嫌だ」という言葉でも、子ども一人一人それぞれの思いや考えが込められていることを理解しながら、まだうまく言葉にできない気持ちを仕草や表情などから汲み取って手立てを考えるように心がけています。

これから保育士・幼稚園教諭を目指す人たちへメッセージ

失敗することを怖がらないでください。授業で演習をしたり、実習で実際に指導案を描いて部分実習をしたりすると思います。人に見られたり、評価されたりと不安が大きいと思いますが、たくさん挑戦してみてください。皆さんが素敵な保育者になれることを、可愛い子どもたちと一緒に応援しています。頑張ってください!

オープンキャンパス開催!(予約制)



2024年

6/15 土

7/6 土

7/20 土

時間 13:00~15:30 予定
(受付12:30~12:50)

オープンキャンパスに参加を希望される場合は、
事前にホームページまたは
TEL.0852-67-3716からお申し込みください。



学校法人 みどり学園 大阪健康福祉短期大学



保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)

鳥根県松江市西川津町4280

TEL:0852-67-3716 FAX:0852-67-3805

ホームページ

<http://www.shimane.kenko-fukushi.ac.jp>

Eメール

kouhou-shimane@kenko-fukushi.ac.jp



スマートフォン用



編集後記

今回のキラリ仕事人は、鳥根県内で保育士として勤務している卒業生さんに書いていただきました。在学中の彼女は、物腰が柔らかく、真面目に学修に向う学生として印象に残っています。先日、友人同士で大学に近況報告等で来校され、頑張ってい

る様子を伝えてくれました。

卒業生の皆さんが社会に出て活躍している姿を見ると嬉しく思います。

いつでも大学に遊びに来てくださいね!お待ちしております。



コミュニケーションペーパー

2024
Spring & Summer
春夏号

Vol. 11

Chouz(チョウズ)第11号 2024年6月1日 発行

発行者: 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科

印刷: 株式会社谷口印刷



OSAKA_KENKOUFUKUSHI.MATSUE